



第2年次 年次通信



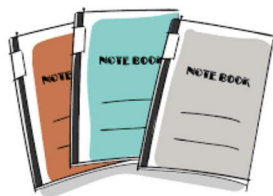
第15号 令和元年 7月19日 (金)



オープンキャンパスに行こう！

2年次の目標

- 1 身だしなみを整える
- 2 きちんと挨拶をする
- 3 時間を守る



来週7月27日(土)から夏休みに入ります。講習や宿題もあるけど、楽しみです。部活の大会や家族旅行など、いろいろな予定が組まれていることと思いますが、今年の夏休みは、ぜひ「オーキャン」も予定に入れてあげてください。どんな進路を目指すにしても、実際に自分の目で見ないことには話は始まりません。そして行ってみると、どんな学校なのか、よくわかります。



各大学で夏休みには、オープンキャンパスが組まれています。受けるにしても受けないにしても、できれば国公立大学を1校は訪れたいもの。また、オープン

キャンパスは事前申し込みが必要な大学がほとんどです。早めに申し込みを行ってください。

道内国公立大学オープンキャンパス日程

大学名	日 程	大学名	日 程
北海道大学	獣医学部～8月3日(土) 文学部、経済学部、教育学部、 法学部、理学部、医学部医学科、 歯学部、工学部、農学部、 水産学部(函館キャンパス) ～8月5日(月) 医学部医学科～8月6日(火)	室蘭工業大学	8月 3日(土)
		北見工業大学	7月27日(土)
		公立千歳科学技術大学	7月27日(土) 7月28日(日)
		公立はこだて未来大学	8月 4日(日)
北海道教育大学	旭川校 7月20日(土) 函館校 7月20日(土) 釧路校 7月27日(土) 札幌校 8月 3日(土) 岩見沢校 10月 5日(土)	札幌市立大学	9月21日(土)
		名寄市立大学	第1回 7月 20日(土)
			第2回 8月 18日(日)
			第3回 10月 19日(土)
		釧路公立大学	8月3日(土)
小樽商科大学	8月8日(木) 12:00～	※事前に申し込みが必要です。詳しくは 各大学ホームページで確認して下さい。	
旭川医科大学	8月1日(木) 高1、高2対象		
札幌医科大学	医学部医学科 8月5日(月) 保健医療学部 8月6日(火)		
帯広畜産大学	8月3日(土)		

模試の振り返りノートを作ろう！



まずは新しいノートを1冊用意しましょう。模試の振り返り専用のノートです。もしかしたらもう作っている人もいるかもしれませんが、このノートには模試で間違えたり、わからなかった問題について、もう一度解き直してみ

て、今度はその同じ問題が出たとして、間違えずにできるようにする、もう一度解いてみる、あるいは自分なりに解説を加えるなど、自分のためのアドバイスや注意点を書き込んだ、自分専用のノートです。

模試を受けるたびにこのノートのページがどんどん増えていくでしょう。そして、受験するまでには、ノートは何冊も貯まることでしょう。それがこのノートの良いところ。



☆これも夏休みの宿題☆

小論文頻出テーマ「現代を知る」

テーマ④「日本語日本人」、

テーマ⑤「教育」

テーマ⑦「政治・経済」

※提出 8月19日(月)

LHR時、進路係に提出→担任へ

できなかったところができるようになるのが、目に見えて実感できるからです。たくさん

貯まったらこのノートを、試験を受けるときに会場に持って行きましょう。このノートを見るだけで不安な



各教科から少しずつ「夏休みの宿題」の連絡が来ているね。国語なんて読書感想文も！僕は何を読もうかな。漱石も良いし、宮沢賢治もありだな。今年は三浦綾子に挑戦しようかな。(ジン)

気持ちがなくなって、安心できるのと、他校のライバル達を圧倒するためです。



☆来週の行事と時間割☆

日	曜	行 事 等 ①②は、1校時2校時を表します。		★時間割をメモしよう						
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
22	月	①～⑥授業、特別進学講習② 週末課題提出(英)	6時間 日 課							
23	火	①～⑦授業	7時間 日 課							
24	水	①～⑥授業 特別進学講習③	6時間 日 課							
25	木	①～⑥授業 ⑦LHR	7時間 日 課							LHR
26	金	①～④授業、⑤全校集会、⑥LHR	6時間 日 課					集会	LHR	



芭蕉が詠んだ「荒海や」の俳句は、旧暦7月4日に詠まれたものです。新暦では約1ヶ月ほどずれるので、だいたい8月4日頃。夏休みに帰省すると、故郷の海からちょうど佐渡島が見えるのです。夜空を見るとこの句を思い出します。(文責森静)

今週の歌

荒海や 佐渡に横たふ 天の川(松尾芭蕉)『奥の細道』

弥生三月江戸を出発し、日光、白河、福島、松島、平泉と北上を続け、さらに奥羽山脈を越え秋田の象潟(きさがた)、山形の鶴岡と、日本海に出てから海岸沿いを南下し旅を続けた芭蕉は、七月二日に新潟に入り、途中弥彦を経て、七月四日、同じく新潟の出雲崎(いずもさき)でこの句を詠みました。「銀河の序」には「日既に海に沈んで、月ほの暗く、銀河半天にかかりて、星きらきると冴(さ)へたるに、」という序文があつて、この句に続きます。弥彦は故郷の隣村です。